

図書館だより

名古屋文理大学図書情報センター
第14号 2004年10月

おいしい話

情報文化学科長 落合 洋文 教授

帰りの電車でときどき見かける青年なんだけど。年は二十代半ばってとこかな。身なりは学生風だけど、たぶん学生じゃあないね。学生なら、あんな律儀に帰宅の時間帯を守るはずがないもの。その彼がね、いつも同じ車両の同じ位置、つまり前から二両目の、後のドアのすぐ横の席に座って、読み耽ってるんだな。

いやいや、読み耽るなんて表現じゃあとても足りない。まさにページをなめるように、というか、行から行へ鼻先をこすりつけるように、というか、もしあの本の作者が見たら感激して涙するんじゃないかと思われるような、そんな読み方なんだよ。

はじめ彼を見かけたときのぼくの印象は、おいしそうに読むなあ、だった。たしかルノアールだったと思うけど、読書する少女という作品がある。もしぼくに才能があったら、真っ先に彼にモデルを頼んだらう。それはともかく、以来ぼくは読書というと、決まって彼の姿を思い浮かべるようになった。

食欲の秋、おいしく読んでますか？

仕事柄、本はよく読みます。洋書が多いけど。どれくらい読んでるか。このあいだチェックしてみたら、三カ月に千ページほどだった。けっこう読んでますなあ。でも、それがお仕事。本は一冊、二冊って数えるもんじゃねえ、ひと山、ふた山って数えるんだ、バカ！ってどなった先生がいたけど、たくさん読めばいいというものでもないんじゃない？

ねえ、ちょっとその先生、最近読んだ本のなかでいちばんおいしかった本、教えて。

ぼく、本はもっぱら積んどくことにしてます。机の上とか、ぎっしり詰まった書棚の手前の隙間とか（ここに本を置くと、後ろの本が見えなくなります。それは事実。でも、ここに埃が積もって困るというひとも多いはず。そういうひとは、けっこうおすすめかも）、要するにどこでもいいんですよ。日頃からなんとなく目に触れるところならね。そうやって一カ月でも二カ月でも、おいしくなるまで寝かせておくんです。寝かせすぎて腐っちゃうこともありますけど。そんなこと気にしたら、おいしい読書なんてできやしません。

でも、こんなのホントじゃない。でなかったら、ハムや干物しかおいしく食べられない、てことになっちゃうもの。新鮮な野菜も食べなくっちゃ。

やっぱ、おいしく読むコツ、ってあるのかなあ。一度あのお兄さんに聞いてみたい気もするけど、そんな質問、ヤボですよ。だって、おいしい、おいしって食べてるひとに、『どうしたらそんなにおいしく食べられるの？』なんて聞けます？

うまいからうまい。それ以上の理屈があるものか。おいしくないんだったら食わなきゃいい。

ごもつとも、ごもつとも。

なに、近頃なにを食べてもおいしくない、って？ そいつはいけませんなあ。お疲れなんじゃないですか。そういうときは体を動かすことです。アタマを空っぽにして、体を使う。そうすれば、そのうちまた戻りますって。

でも、不思議なんだよなあ。どうして彼は食欲が落ちないんだろう。いつもお腹がすいた状態でいられるとしたら、それはよほど健康な証拠。そういうひともいるのかしらん。ぼく、やっぱり健康じゃないみたい。なに、食べ過ぎだ、って？ そうか、そう言われれば、そうかもしれない。三カ月に千ページだもんな。でも、それが仕事なんだから、しかたないじゃん。

そういえば、知ってます？ 伊達政宗って、すごい食通で通ってたんだけど、あれは幕府の役人をもてなすためにやってたことなんだって。晩年は潰瘍がひどくて、とても御馳走なんか受け付けなかったけど、それでも藩主の務めとして、最後まで美食をやめなかったんだって。

おいしくてもおいしくなくても、美食をつづけるべきか、それとも運動の秋らしく、健康的な生活に切り換えるべきか？ 生活習慣病を撲滅しようっていう管理栄養士さんたちには申し訳ないけど、ぼく、やっぱこれでいい。そのかわり、あのお兄さんから元気をもらってがんばる。おいしいものをつくるには、おいしいものをいっぱい食べなきゃね！

おいしい話 1
セミナー紹介 2 - 3

本の紹介 4 - 5
図書情報センターから 6

★ セミナー紹介 - 第9回 - ★

このコーナーではセミナー担当の先生方にご担当のセミナーについてコメントをいただいております。今回は、情報文化学科の佐久間教授から基礎演習の内容について、健康栄養学科の鷲野助教授から健康栄養学科における基礎演習のあり方について、それぞれ紹介していただきました。

佐久間ゼミの紹介(情報文化学科、基礎演習)

情報文化学科 佐久間 重 教授

私の基礎演習は、情報文化学科の2年生13名、社会情報学科の2年生4名、計17名で構成されています。すべてが男子学生で、この中には、ツーリング同好会の6名全員が含まれています。学生一人ひとり個性があり、ゼミ全体として一つの特徴を出すには至っていません。ゼミの時間が水曜日の1時限目と言うこともあり、遅刻して来る学生も見られます。

基礎演習という名前の通り、このゼミでは高校生の時代までに勉強してきた基礎的な事柄の再確認を行っています。

4月と5月は日本語表現の勉強に充てました。例えば、次の2つの表現のうちどちらが正しいのかを考えてみました。皆さんも考えてみましょう。

正しい方に○、間違っただ方に×をつけなさい。

() 大学生であるならば、すべからく勉強すべきである。

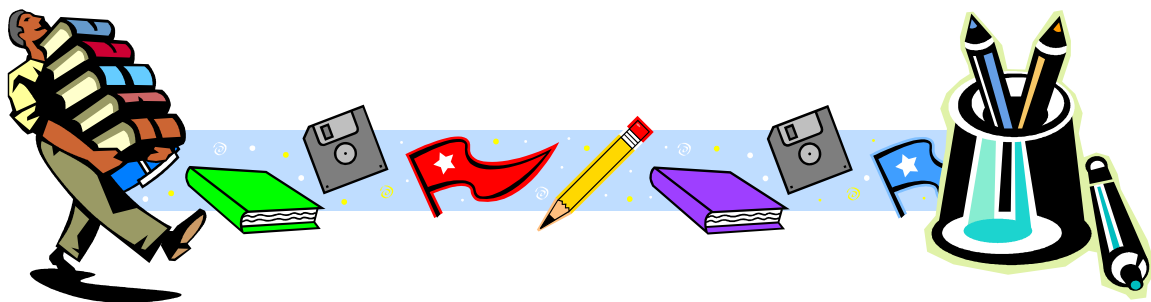
() 日本では国会議員はすべからく選挙で選ばれる。

6月と7月は、数学の基礎を勉強しました。私自身も忘れてしまっていることもあり、数学に触れる良い機会になりました。例えば、次の計算ですが、簡単ようで、なかなか難しいものです。皆さんもやってみましょう。

$$3 \times 24 + 50 - 7 \div 2 =$$

国語にしても、数学にしても、大学生になってしまうと、疎遠になりがちです。でも、もう大学入試とは関係がありませんので、もう一度取り組んでみると、新鮮な気持ちで勉強できるのではないのでしょうか。また、就職試験でも必要になりますので、読者の皆さんも高校生の時の問題集を引っ張り出して、問題と取り組んでみたら如何でしょうか。

意外な学生が漢字書き取りが得意であったり、数学の公式を良く覚えていたりして、このゼミで、学生の能力の再発見をしています。



健康栄養学科における「基礎演習」の紹介

健康栄養学科 鷲野 嘉映 助教授

今回、健康栄養学科におけるゼミを紹介して頂きたいとの原稿依頼であったが、健康栄養学科においては、現在のところ、所謂「セミナー・ゼミ」は存在していない。情報文化学部のゼミに相当する授業は、4年次に開講される「卒業演習」ということになる。そのため、3年次までは各学年は2クラスに分かれて、各指導教員が学習・生活指導を行っていくことになる。入学した学生が指導教員以外で教員に密接に接する機会としては、今回紹介する「基礎演習」(1年次前期)がある。この科目は、自学自習できる体制を築く事を目的とした、情報文化学部の「フレッシュマンセミナー」(1年次前・後期)にほぼ該当すると考えられるが、若干の違いもあると考えられる。シラバスから基礎演習の概要を見てみる。

「ヒトの健康に関わる管理栄養士の育成には、科学的・専門的知識や技術を学び、自ら問題点を見出し研究・改善していく能力が必要とされる。また、人々と接する場面が多いので、コミュニケーション能力も重要である。そこで、1年生の始めに大学で学ぶ意義を考え、学習・研究するための基本的な姿勢について、グループ演習を通して学ぶ。これは、卒業演習の基礎的訓練の役割も果たす。」(一部改変)

授業の実際としては、基本的には8～9人の小グループが、演習担当教官の下で、各種読解・科学レポート作成能力を磨いていくことになる。授業の進め方は、各教官に一任されているため、教官によって使用するテキスト(本年度は、「大学生からのスタディ・スキルズ 知へのステップ:くろしお出版」もしくは「レポート・論文・プレゼンスキルズ:くろしお出版」のどちらかを使用)、課題も異なってくるが、稲友祭において各グループが学習の成果を発表することが一応の目標とされる。本年度の各グループにおける発表課題は、以下の通りである。

- | | |
|------------------------------|-----------------|
| 「アルコールと健康」 | 「Web上の健康情報について」 |
| 「ヨーグルトについて」 | 「コメと健康」 |
| 「カテキンの効能について」 | 「大豆とその加工品」 |
| 「食の変遷 1920～2000」 | 「栄養補助食品について」 |
| 「糖尿病にならないための食事・運動・生活習慣の改善方法」 | |

残念ながら、大学入学まで十分な「読むこと」「書くこと」の訓練を受けてこなかった学生も多く、授業の当初は戸惑いも大きいようである。しかしながら、1年次前期に開講された実習におけるレポートを見ると、半年間でレポート作成能力は格段に上達していることが判る。「基礎演習」が有効に機能している証拠であろう。「基礎演習」で学んだ内容を、これからの授業・実習の中で生かしていくとともに、さらに研鑽を積んでレポート作成能力を鍛えてもらいたい。

最後に、昨年度の私の基礎演習で、学生に提示したトレーニング問題の一つを挙げてみる。皆さんの回答は？

「課題文」 現在のところ狂牛病は脳、脊髄、眼、小腸の最後の部分にあたる回腸遠位部以外からの感染は認められていない。このため通常の食生活では、感染の危険はない。

「質問」 この主張は、一見正しそうに見えるように書かれている。一見正しそうなメッセージの中の、どこが問題か？ a. 問題の箇所を抜き出して、問題点を指摘しなさい。 b. その上で、メッセージが妥当だとしたらどのような場合か。 c. 妥当でないとしたらどのような場合か。

(論理力を鍛えるトレーニングブック:かんき出版 より)

✧ 本の紹介 ✧



『アナリーゼで解き明かす名曲が語る音楽史』

田村 和紀夫 著

音楽之友社 2000年

紹介者：情報文化学科 本多 一彦 助教授



音楽を聴いていて、感動することはよくあると思いますが、なんとなく面白いとか、不思議な感じがする曲に巡り会うことはないでしょうか。音楽も言葉やスポーツのようにルールに従って作られています。言葉を間違えると相手に意味が通じませんし、スポーツでは失格になります。しかし音楽ではルール違反が新たな作品を生み出すことがあります。つまり、そのルールは時間や場所によって変化していくものなのです。西洋音楽の場合、そのルールは楽典という形でまとめられ、専門店ではそうした本を見つけることができます。しかし、ルールだけが解説されると面白くないというのが正直な感想です。

この本では中世から現代までの西洋音楽の名曲を例に、その曲の「すごさ」をルールを用いて教えてくれます。たとえばモーツァルトの曲は、癒しの効果があるということで、テレビでも取り上げられることがあります。モーツァルトらしさとはなにかについて、モーツァルトに大きな影響を与えた J.C.バ

ッハ(大バッハの末息子)の曲とモーツァルトのものを比較し、モーツァルトのどこが「すごい」のかを教えてくれます。両者は、似ていますが、よく聴くと何か違うようにも感じるので。また、現代の音楽では、多くの人には難しいと感じられるいわゆる現代音楽ではなく、サティ、ブルース、ポップ・ディランが紹介されています。コンピュータで自分の曲を作り、大いに楽しんでいる人もいます。大いに楽しんだ後で、もっとよくしたい、もっといいものを作りたいと思ったときに、音楽の基礎になっているルールを知ること重要なことではないでしょうか。

最後に一つだけこの本に注文があります。それは楽譜だけでは音をイメージすることが難しいので、適切な音の付録が欲しいということです。特に和音の進行は、鍵盤楽器がうまく操作できない人にとって非常によい手助けになると思うのですが。





『情報文化学ハンドブック』

片方 善治 監修 情報文化学会 編

森北出版 2001年

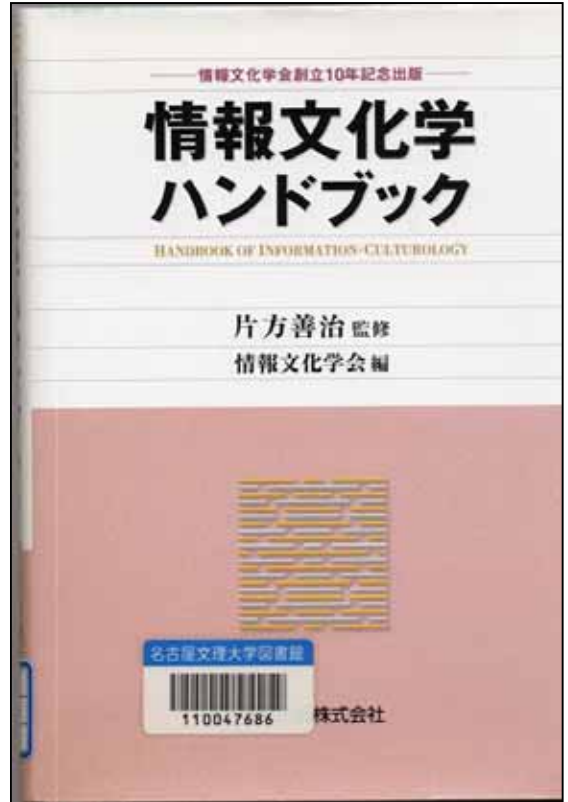
紹介者：情報文化学科4年 梅田 雄也



本書は「情報」と「文化」をそれぞれ単独で論じた後、情報文化の概念を示している。「情報」に関する諸概念の構成要素を、ソフトウェアサイエンスやソフトウェアテクノロジーの領域を含む情報科学系、情報の貯蔵・分配・収集をおこなう図書館のような施設一般を指す施設系、心理学系の学問や芸術、およびセキュリティ・プライバシー等を扱う人間科学系にまとめ、3つの系をそれぞれX軸、Y軸、Z軸としてできる空間を構成し、「情報」の諸概念をこの空間全体の各場所にあてはめるというアプローチを取っている。

「文化」という言葉は、人間が生活を営むために、自然環境に手を加えて得られた具体的なもの・枠組み等を表すものとして理解されている。本書では、人間の生活が時代・地域により一様でないことから文化に個性的な面が生じ、そのような文化が相乗的に影響を及ぼしあい大きな流れとなることを文明と呼んでいる。そして、文明の所産を、「物質的なもの」と「精神的なもの」の2つに分け、さきほどの3つの軸を用いて捉え、考察をおこなっている。

本書では、情報文化学を人文科学系に属する領域を研究対象とする学問と位置付けている。その一方で、デジタル情報を駆使して精神的な価値を創成し、文化の発展に寄与する方法論として情報文化学が捉えられるならば、同じデジタル情報を処理して物質的な価値を創成し、文明の開拓に貢献する方法論である情報工学とは互いに対になる関係にあるという意見も述べられている。



★ 原稿募集中 ★

『図書館だより』では、読者の皆様からの原稿を随時募集しています。1ページ全体に掲載をご希望の方は1000～1300字、半ページに掲載をご希望の方は400～500字が大体の目安となります。内容の前部分に、

名前 所属学科

学生の方は学籍番号

本の標題 著者名

出版社名 出版年

を明記し、文書を保存されたフロッピーまたは印刷された用紙を、図書館カウンター（内線：362）までお持ちください。

採用された方には粗品を差し上げます。たくさんのご応募をお待ちしています。

図書情報センターから

★ WEBメールの導入について ★

本学のメールをより利便性が高くなるように、インターネット閲覧ソフトがある環境ならば、何処からもご自身の ID とパスワードを入れることによりメールを閲覧し、また送受信が出来るシステム（以下、WEBメールとする）を採用しました。

「WEBメールでのメール送受信の流れ」

(<http://www.nagoya-bunri.ac.jp/pub/webmail.pdf>)

を参照頂き、広くご利用頂けることを期待します。

WEBメール用ログイン URL :

<http://www.nagoya-bunri.ac.jp/webmail>

☆☆お願い☆☆

図書館利用案内に記してある通り、図書館内では飲食・喫煙を禁止しています。入口ゲートにも掲示していますが、紙コップのドリンクや缶ジュースの持ち込みはご遠慮していただき、ペットボトルについては、鞆の中に入れ机上には置かないとの条件で持ち込みの許可をしています。

しかし、最近館内での飲食がよく目につくようになってきました。今後の状況によっては、図書館内へのすべての飲食物の持ち込みを禁止せざるを得なくなってしまうかもしれません。

図書館を快適にご利用していただけるよう、飲食・喫煙の禁止にご協力ください。



平成16年10月

編集：名古屋文理大学図書情報委員会

発行：名古屋文理大学図書情報センター

〒492-8520 稲沢市稲沢町前田 365

TEL：0587(23)2400 FAX：0587(21)2844

e-mail：toshokan@nagoya-bunri.ac.jp

